

椿説恋語
五言

13
3058
2





鬼魅談語 四編

外題曲五回函

へ13 特
3058
2

世帯主名い

為永春水作一壽齋國貞画

春説鬼魅談語

榮園

四編上之卷

什磨這策子の發端小説く盲龜の浮木と言へる
 変へ海の底小腹の下小目の有る龜より此龜三千
 年一度の海上小浮木とあがるは腹の下に眼の有
 故日の光りと看る事を得た倘流さる浮木
 小偶てその上に乗る甲と干時這木小裏表へ板
 通りたる穴ありて其穴へ那龜の腹の下あるツの
 目と自然とあ当居る折も風志死浪と
 打立る浮木を吹返したる死龜の死とも小
 逆さる小ありた件の木は孔より天日を見ることあ
 余ハ三千餘年一度浮びて浮木小のふも平る
 ぐ。浮木小偶とも虚穴の枯木にあつては



奈何せんより虚穴ある木ありし其目を
 穴に居る居る日の光りとも見る事ある
 ま。縦に孔小目を当りとも風吹来りて
 覆さる空を視る支成さる人況や
 天の曇りし日欽又夜あは浮び出る穴ある
 浮木の上小のありて風吹覆さるありとも
 ありし日を見る事ある是を大師の
 金鑛集にも佛教小値偶と云盲龜此
 浮木小ありしより猶と云説きしより
 這は俗の識る事ある浮木小朽木ある
 べを挑の枯木小作り做し一僕が一時の戯墨
 のも无用は并は似れは婦知乃為
 小圖をさへ模写して這端文小換ふとを



戊午 為永
 新春 五 春水記

春水記



眼力千里



无量壽老仙
俗賞縮地先生と云

敏耳の順風



鬼夜叉愛妾
 青柳の緑子

青柳の緑子



孫悟空
 擬猿
 松手
 悟

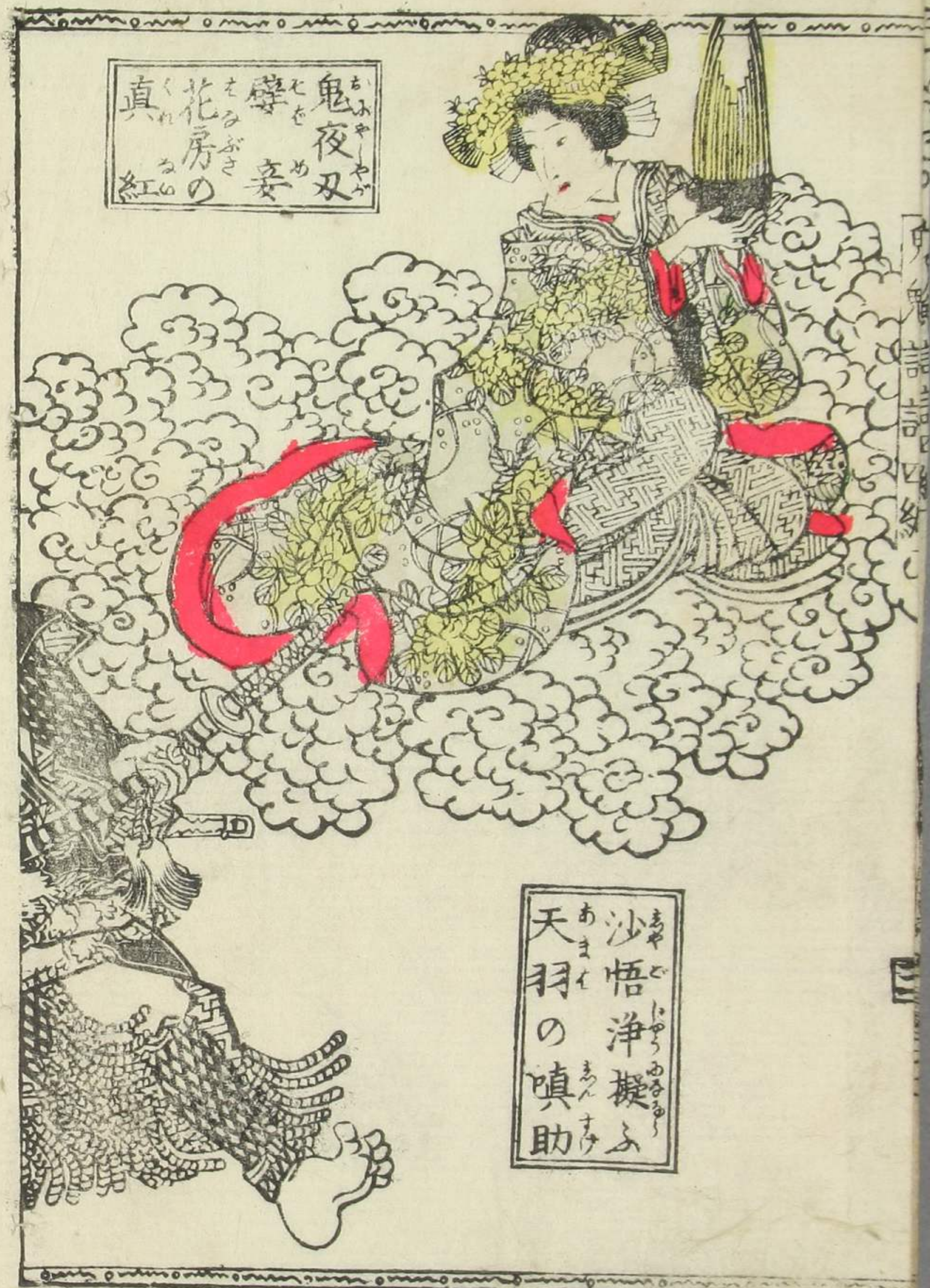
孫悟空

鬼夜叉の門



猪悟能の癡々六門

鬼夜叉の妻 花房の紅



沙悟浄の嗔助 天羽

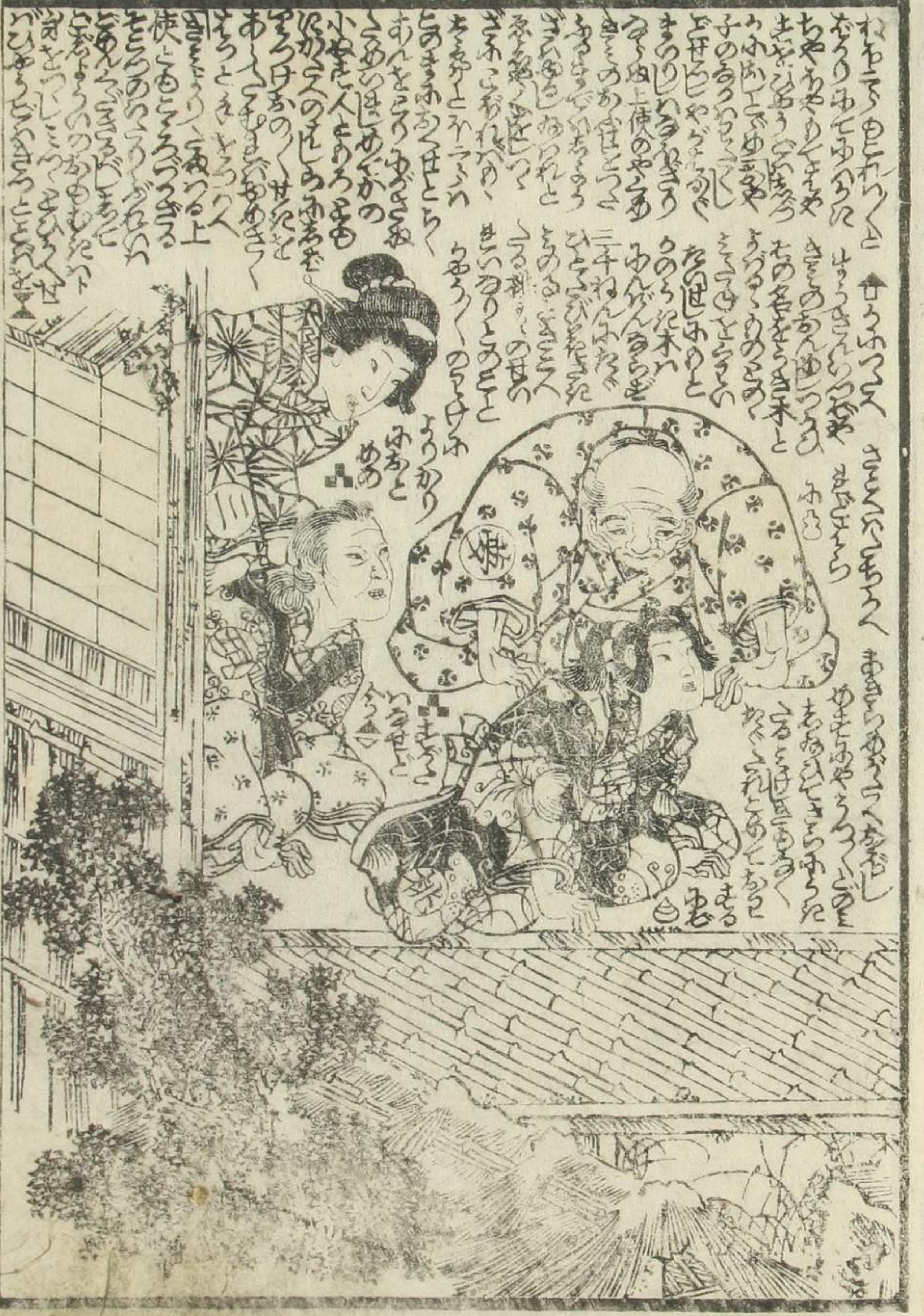
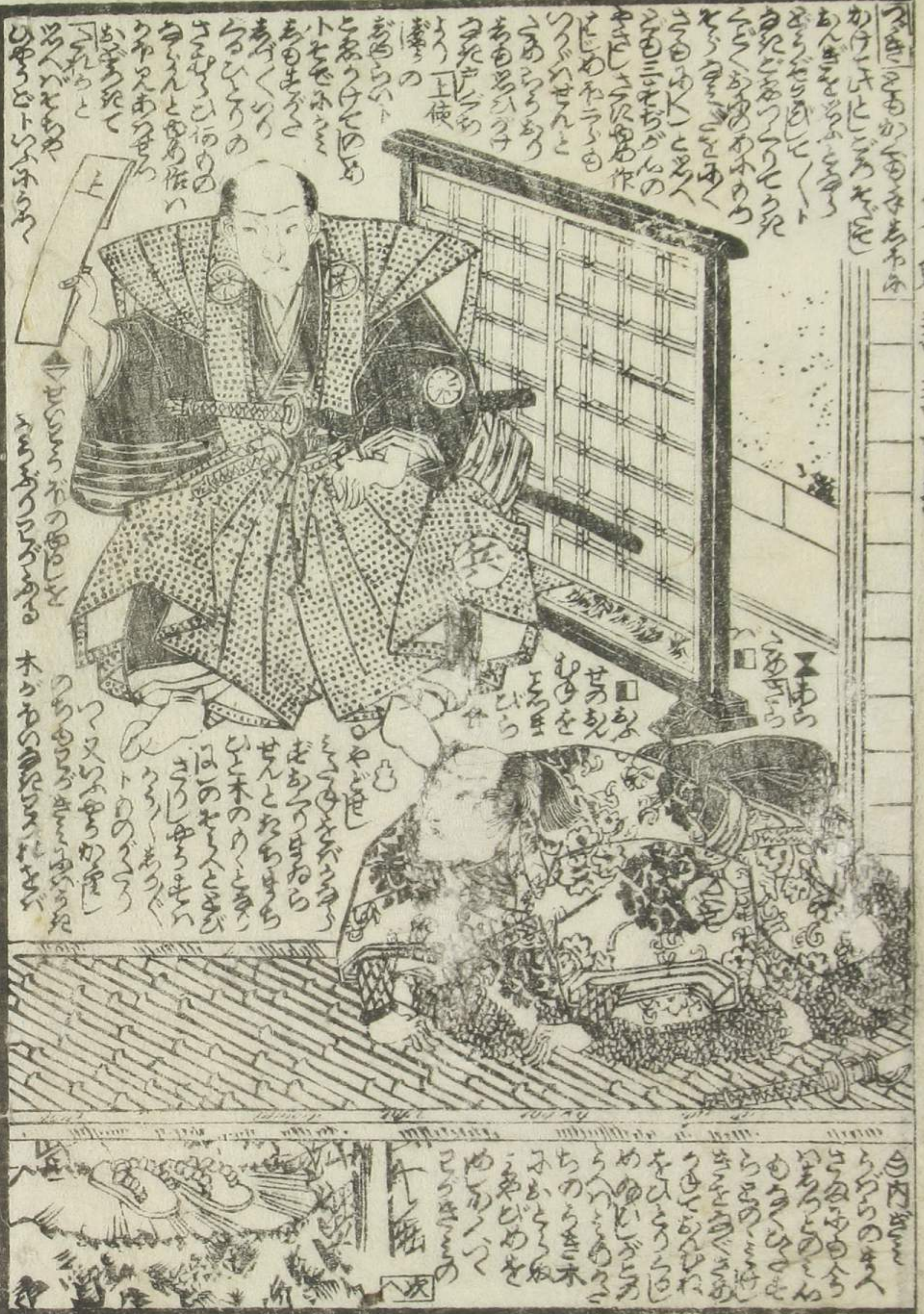




尾道大番田端



尾道大番田端





舟に乗りて
山陰中
舟の形を
出像
舟の形を
出像

舟に乗りて
山陰中
舟の形を
出像
舟の形を
出像



舟に乗りて
山陰中
舟の形を
出像
舟の形を
出像

舟に乗りて
山陰中
舟の形を
出像
舟の形を
出像

新大正四年



鬼島記 四卷

文慶堂藏板略目録

新撰 柳花志げり

物編 二冊
 白の中より流りせし川原の松
 白の中より流りせし川原の松
 白の中より流りせし川原の松

永代萬葉往來 兩頁附

百人一首集文庫

消息往來 近刻

小唱文庫 二冊 編編

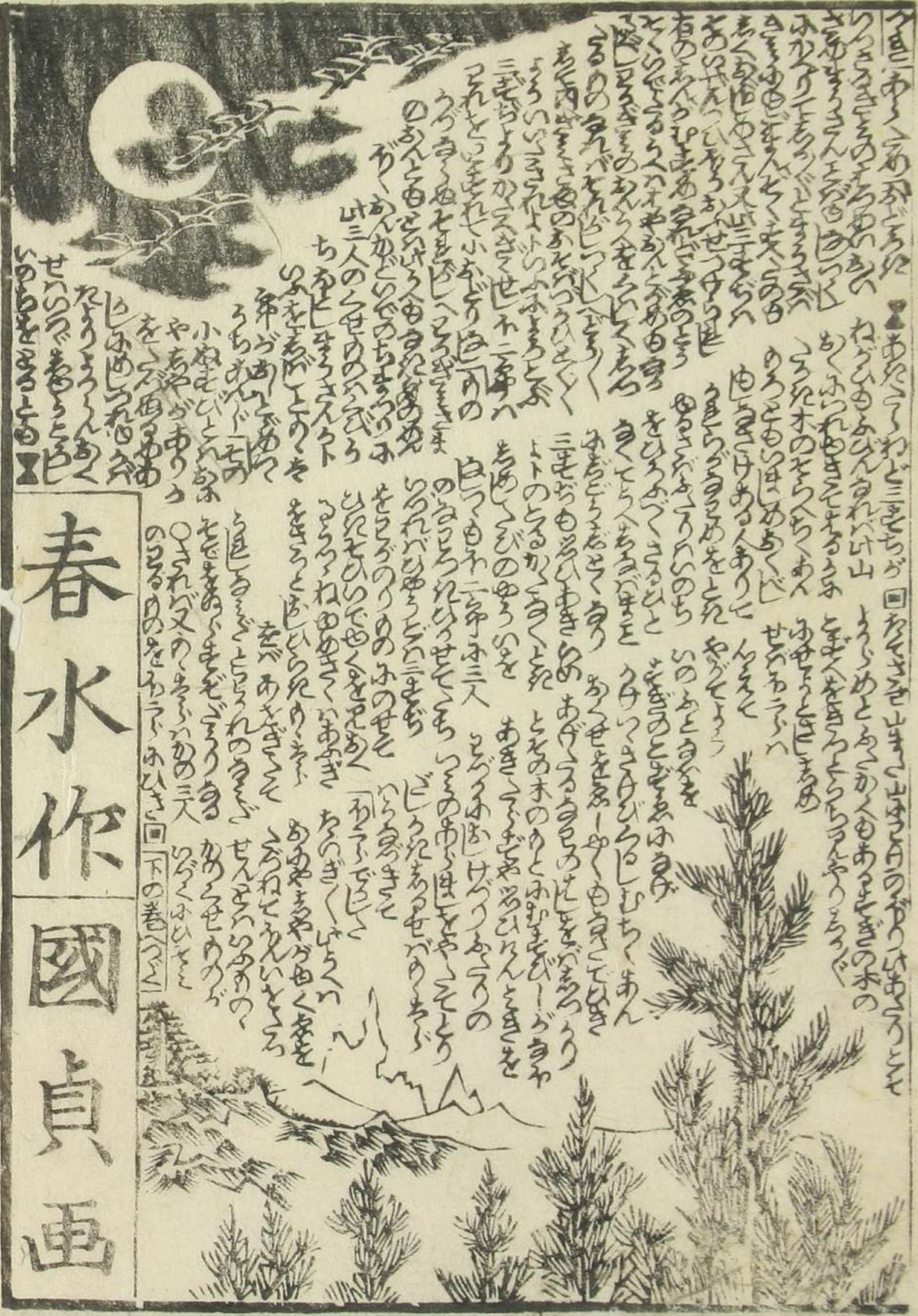
農家 必要 回舎往來 近刻

源氏銘刀誌 一冊 中本 近刻

源氏銘刀誌

この中より流りせし川原の松
 この中より流りせし川原の松
 この中より流りせし川原の松

地本草紙問屋 大國屋金治郎



春水作國貞画

貞元三十四年四月

春水作
國貞畫



榮久堂版



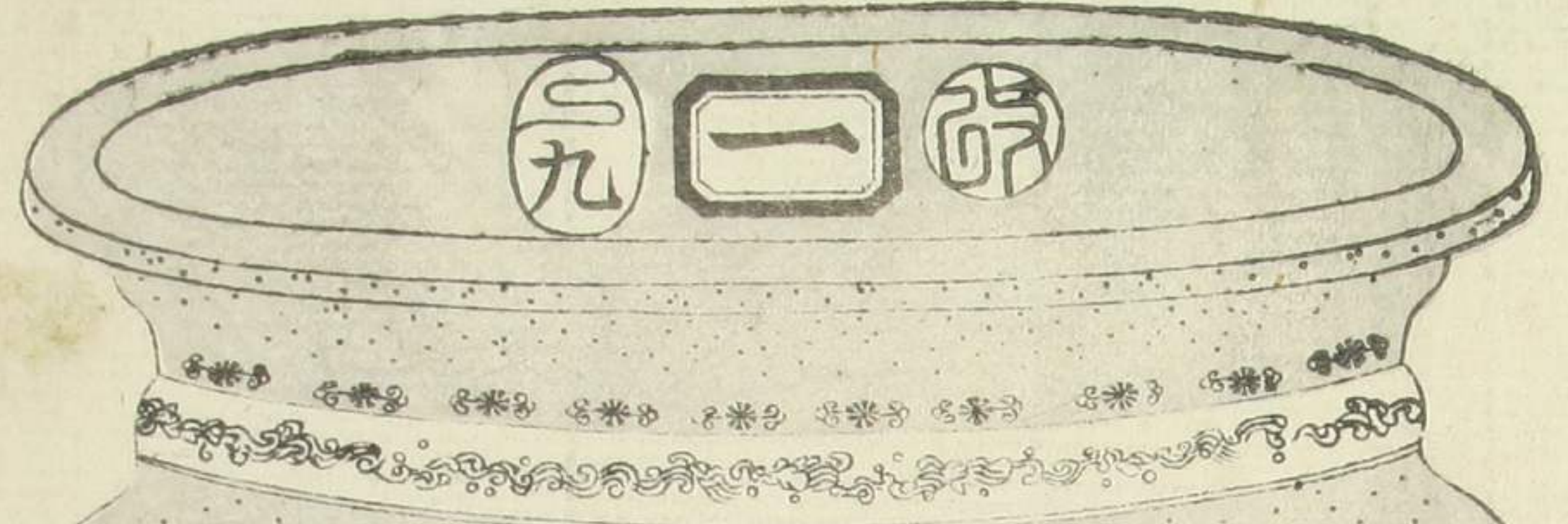




上
并題曲立國器



九 一 九



道の味ひの奈何と問ひし孔子のこれぞ苦いと
いひ老子は是を酸といひ釋迦は味の甘といふ
いづれも深意のるべきを生悟りある作者が当推
婦幼雅童を導く小の甘記を且つんと筆先小唇
も名代の名物のと名をとる迄あり至らざとも初編を
一盆召のぐらゝある趣向のくつとまた小縦ひ胸
焦る共尚幾編も舌を舌りて度幾とと販元が仕入を急
ぐ催促小臼より空を突抜小復這五編をのふれを派分
戊午
青陽

為永春水記



椿説鬼魅

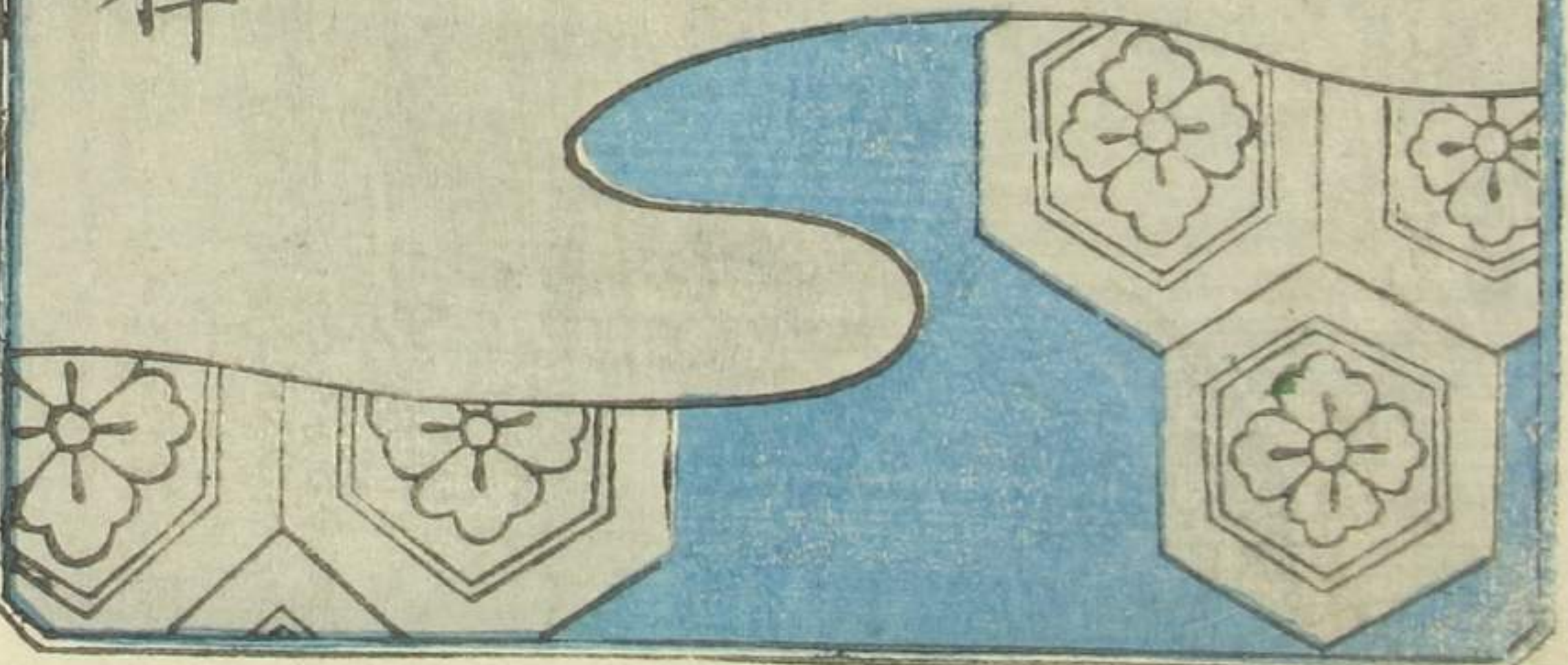
談語五編

上之卷

為永春水作

一壽齋國貞画

榮久堂梓





野 妖 白 屋
 晒 妓 の 屋

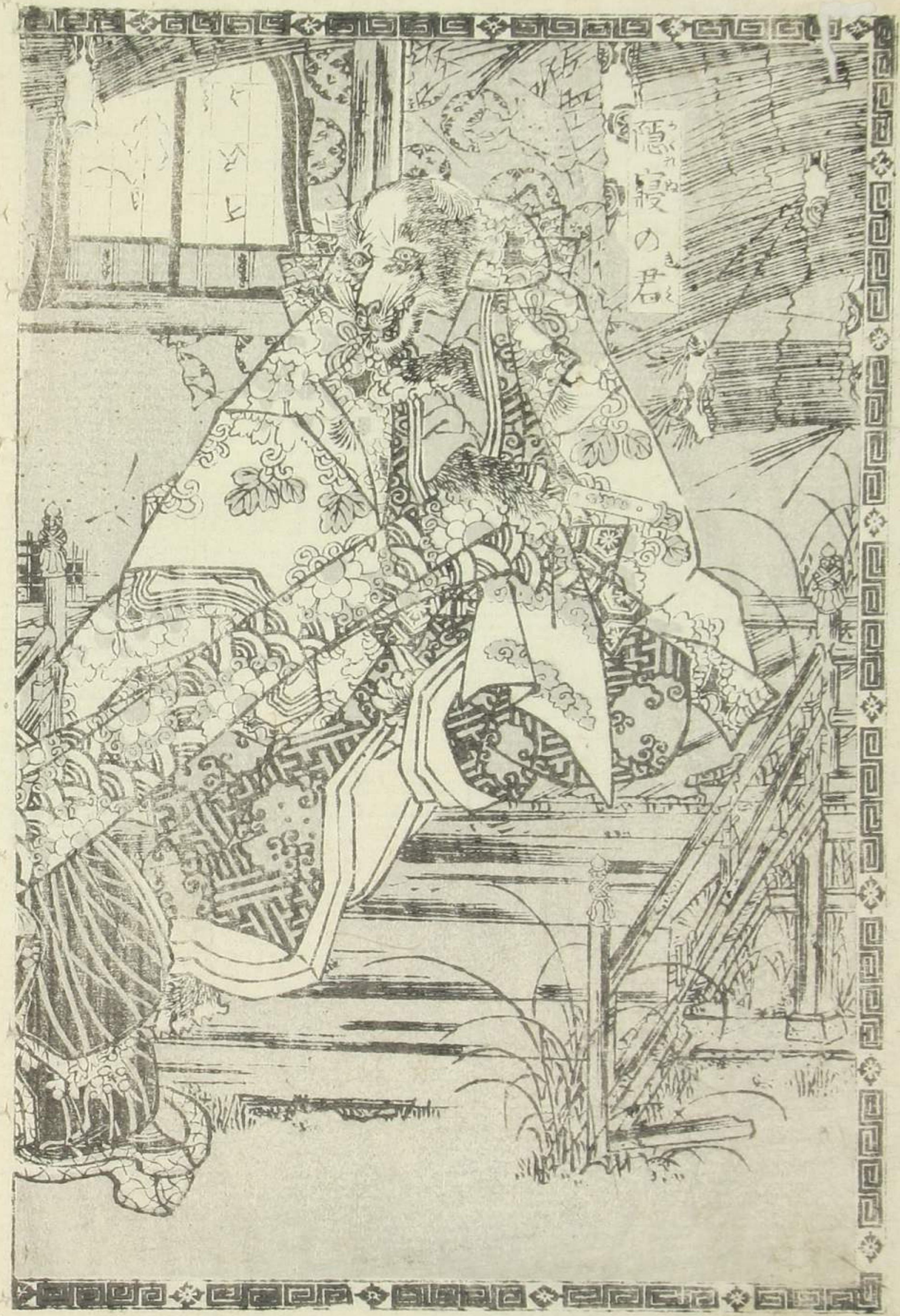


空 雛 枝
 蝉 せみ

魚 鬼 談 話 五 巻



鬼談話五編



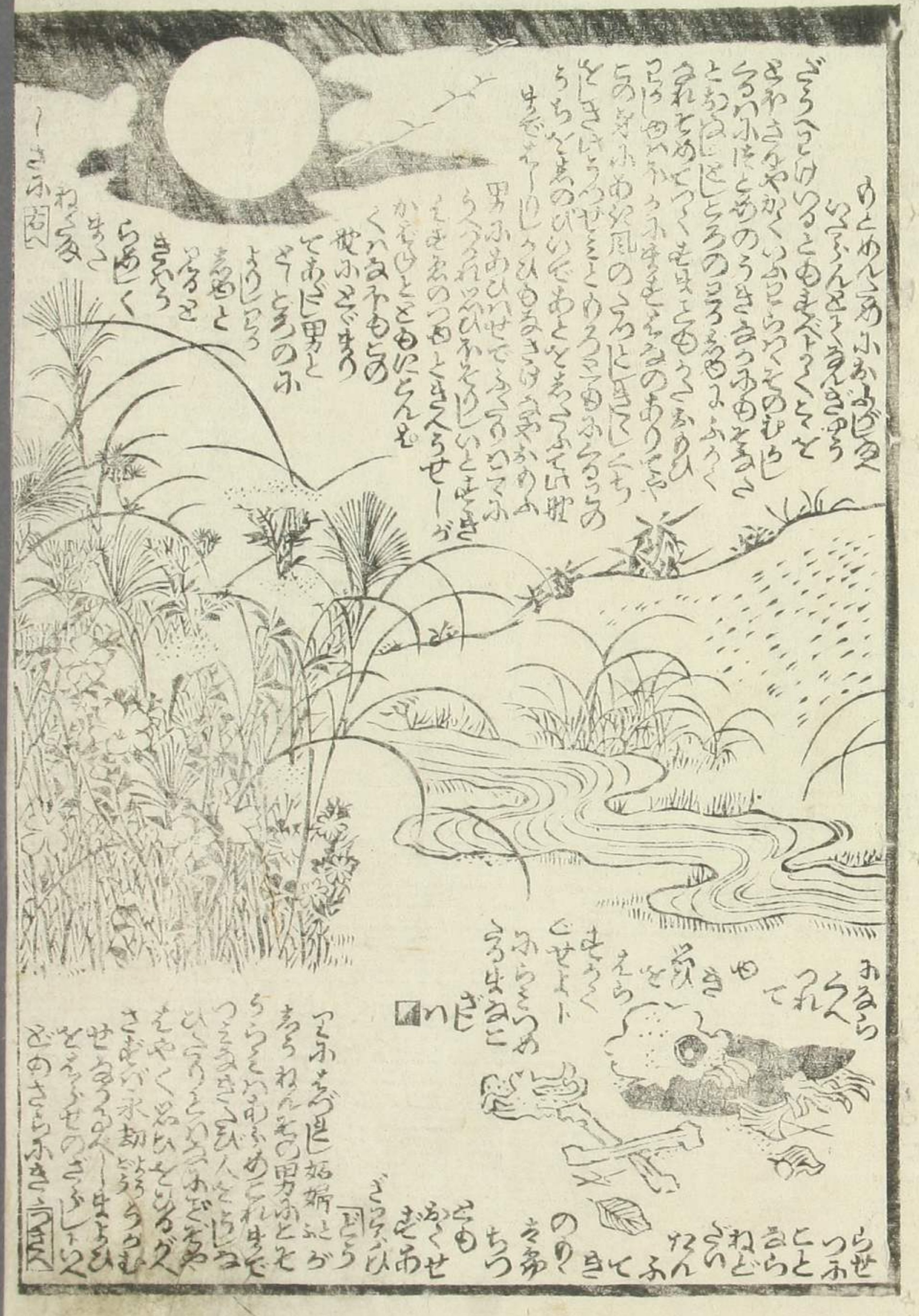
鬼談話五編

徳寝の君



武具の
甲冑の
鎧の
兜の
櫛の
刀の
槍の
弓の
矢の
箭の
石の
鉄の
銅の
銀の
金の
玉の
珠の
石の
木の
草の
花の
鳥の
魚の
虫の
獣の
人の
神の
鬼の
妖の
魔の
精の
霊の
魂の
魄の
魂の
魄の
魂の
魄の

武具の
甲冑の
鎧の
兜の
櫛の
刀の
槍の
弓の
矢の
箭の
石の
鉄の
銅の
銀の
金の
玉の
珠の
石の
木の
草の
花の
鳥の
魚の
虫の
獣の
人の
神の
鬼の
妖の
魔の
精の
霊の
魂の
魄の
魂の
魄の
魂の
魄の



武具の
甲冑の
鎧の
兜の
櫛の
刀の
槍の
弓の
矢の
箭の
石の
鉄の
銅の
銀の
金の
玉の
珠の
石の
木の
草の
花の
鳥の
魚の
虫の
獣の
人の
神の
鬼の
妖の
魔の
精の
霊の
魂の
魄の
魂の
魄の
魂の
魄の

武具の
甲冑の
鎧の
兜の
櫛の
刀の
槍の
弓の
矢の
箭の
石の
鉄の
銅の
銀の
金の
玉の
珠の
石の
木の
草の
花の
鳥の
魚の
虫の
獣の
人の
神の
鬼の
妖の
魔の
精の
霊の
魂の
魄の
魂の
魄の
魂の
魄の



國貞画春水作

このころの甲冑はこれよりさうさうな
ものさへあるからとらう
あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも

あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも

あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも

あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも
あつたあつたさうさうも

榮久堂刊行 蔵板録目

桃太郎 鬼嶋傳

椿説鬼魅談語 七編
十編迄

鳥永春水作 一雄齋國貞画 一壽齋國貞画

傾城のいれ 王菊物ぢり 五編 六編

繪姉妹姿見草紙 魯文作 國芳画

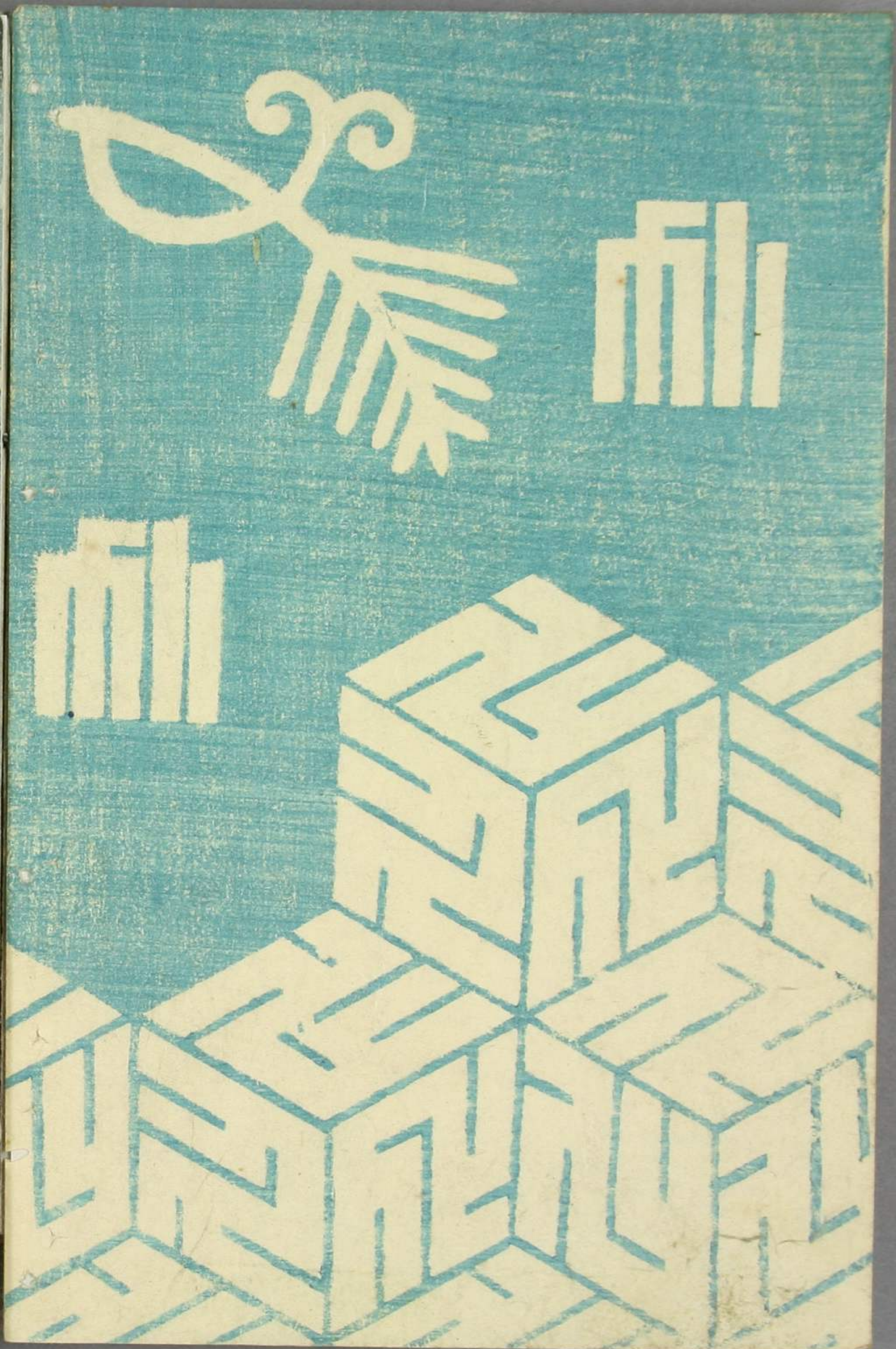
白養美人香 一名わく 年 一包二夜五分 半包 百三十六銅

一名 あつたあつたさうさうも 三都妖婦傳 四五之巻 當出板

仙果著作 豊國翁画

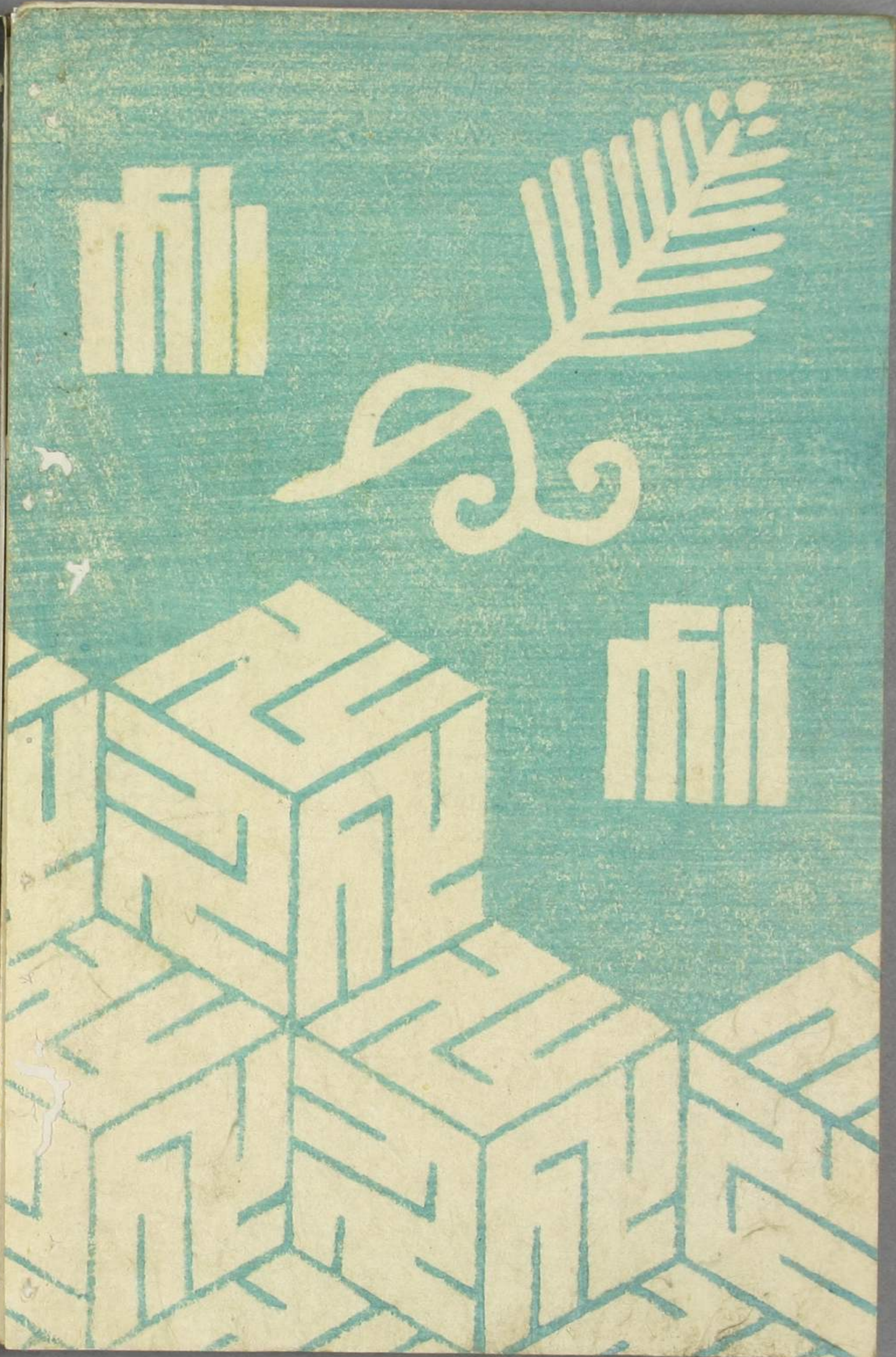


喜如さく
桂院 榮久
五
編 たんご
國貞堂





椿説鬼魅談語六



桃太郎
鬼嶋記
椿説鬼魅談語 六篇
上冊



美の作
山本
國貞画
椿

桃郎鬼島と撃手の傳の老婆の兒啼と止むる此具よりて
齊東野語の類ふれども當初這語を造る者託たる所なり
てやあらん夫桃へ木行りて五常ふ比仁位仁八行の第一
ふる人より仁らんを禽獸より異る妻あり余が三歳の雅童
も聞小隨ひ心執りてその桃太郎よりあつて欲も是もその仁基
とある天地自然の理ある汝道にかさつた迹ふりつと聖乃文あり
載らるる例の作者が月剽小儒佛神道混交の挽拍お布き
鬼魅談語第六編と丸めあげしも復是兒啼と賺その具よりある

巳未陽春新鐫
八
為永春水誌

鬼魅談語第六編



門戌癡々六

樹上



猪八戒

鬼鹿言六

狙手貪平



孫悟空

樹下

五編よりつぎ

ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん



ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん

ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん



ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん

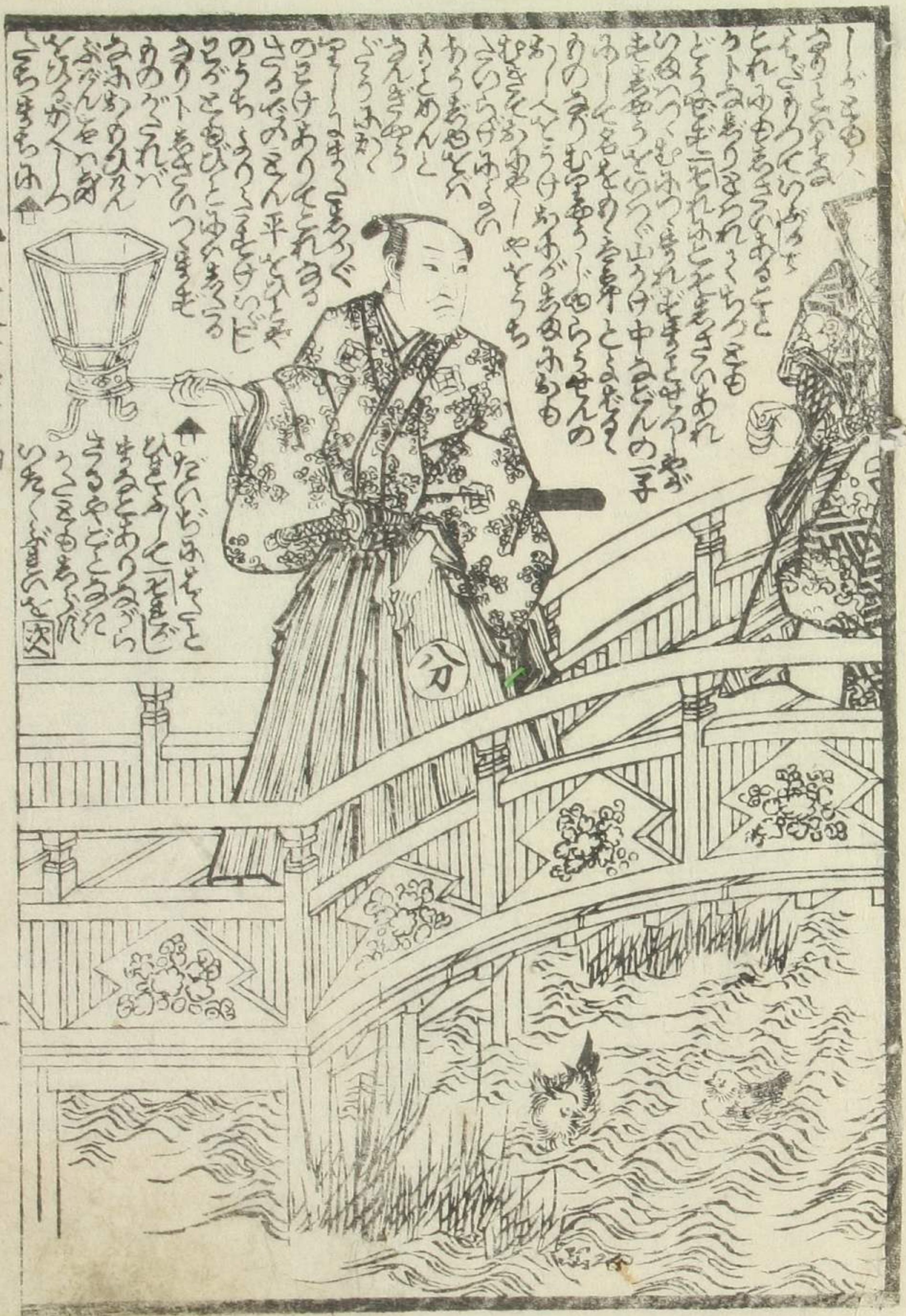
ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん



ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん

ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん

ちのりくち多と
とん平とぬま
びとまりと
あゆみあそ
それからあ
ふつけち
それか
むらびと
あひん



為永春水作

一壽齋國貞画

外題曲多國貞

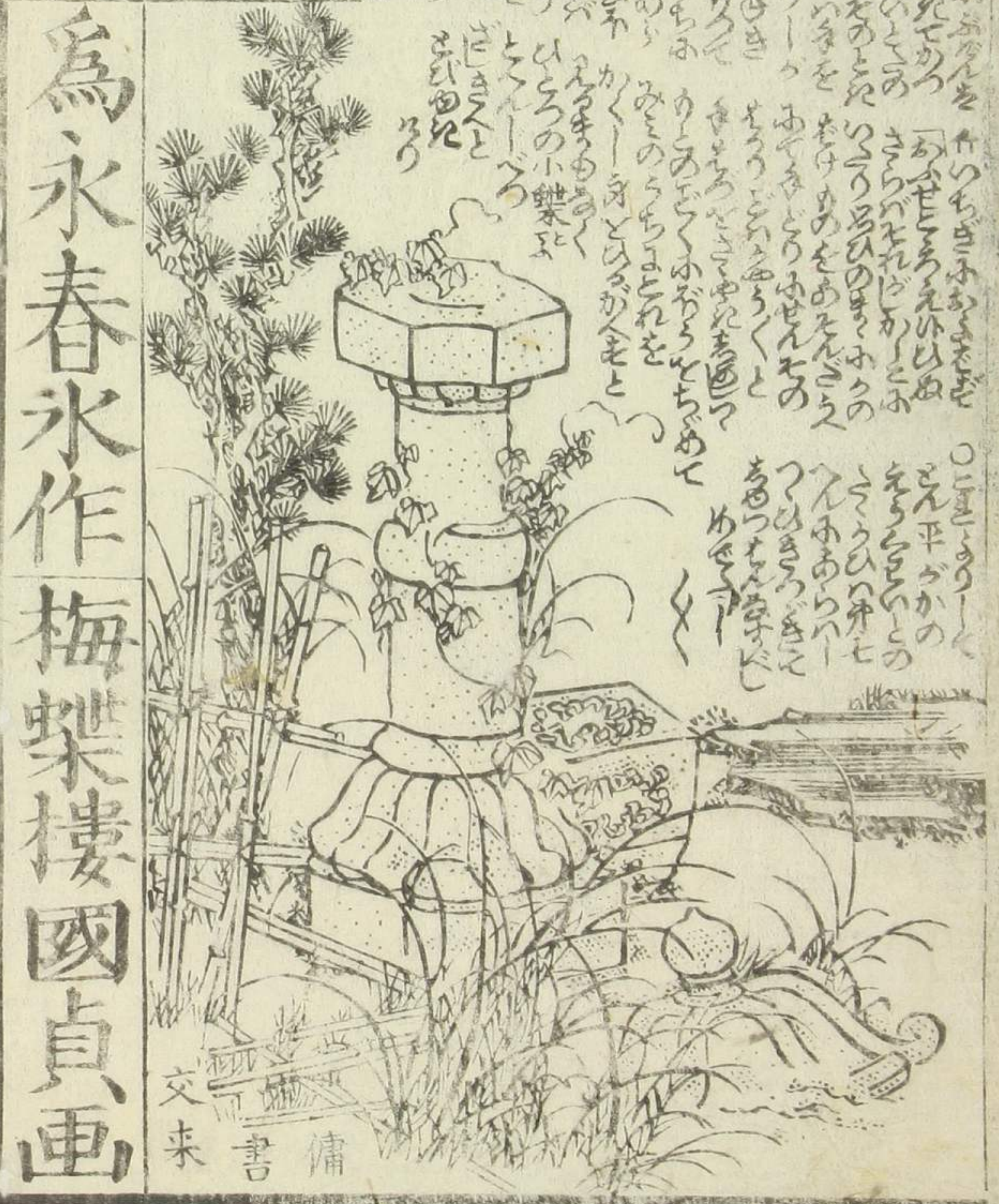


下





朝牛肉丸 二色
鮮 分一むいと補ひえ
せのそますめ兼
ふはひきよまふの
人たふれてふ
下公さきせんり
対品 漆寄八製
を安



為永春水作梅槩樓國貞画

安政七庚申歲新發行目錄

官川の雀書と巻
救世の智達巻軸
武蔵の茶屋
地蔵尊の
新四季の
撰 たり
遊山壽古六
三人娘絹屋小説
初編 同 作
二編 同 画
瀨川如皋作
川國貞画

影 福引心ば

地本草紙問屋
人形町通
堀留町
文慶堂
大國屋
金治郎

その外影板致かるこ中を控のりぬ敷中口竟はる由違物本口有る筆致こは以こ

